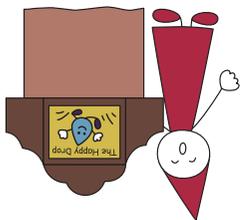


紙芝居文化の会



日本語

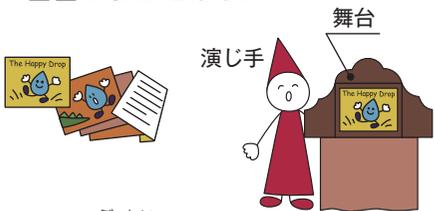
～ここもあけ～

紙芝居の演じかた

えん かい ほん じん

紙芝居は

- 画面が一枚一枚別々
- 画面のうらに文章がある
一枚ずつずれているよ。
表紙の文章は、おはなしさいごの画面のうらにあるよ。



- だから舞台に入れて
ぬいて、さしこんで
おはなしがすすむ…
- 演じ手 (読む人) がいる

はじめます



- 舞台の横に立ちましょう
みんなと向かいあうんだよ。
うしろにいつてはいけないよ！
- とびらをあけます
①から ②,③
③,② どちらでも。

おはなしの はじめりはじまり…



- 作者名 (脚本) をよみましょう
- タイトルをよみましょう
とびらがあくと何がでてくるか
どきどきするね！

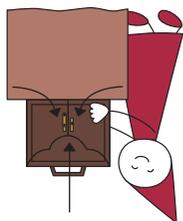
- 舞台のそばからはなれない
- 声色 (こわいろ) は使わない
- パフォーマンスもしない
→演じ手が目立って、作品の
世界がどこかへいってしまうよ。



- ことばをかえたり、
内容をかえたりしないように
→作品がこわれてしまうからね。

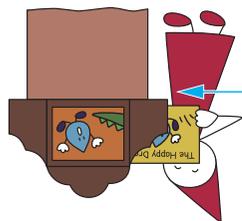
紙芝居の特性 (おとなの方へ)
演じ手が画面を抜き出していきくと、
作品の世界は、現実の空間に出て
いき広がっていきます。そして、
演じ手と観客はコミュニケーション
によって作品の世界を「共感」して
いきます。

- 「おしまい」で画面はぬかないで
とびらをしましましょう



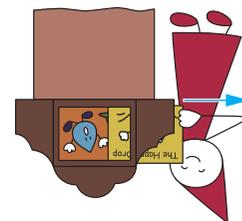
おしまい

- ぬいた画面は舞台にさしこみ
ましょう
- うしろや横におかないようにね。
ぬいて、さしこんでスムーズな
ながれが、おはなしの世界へ
連れてってくれるよ。



さしこむ

- 文の最後までよんだら
画面を心をこめてぬきましょう
- ぬいている時間がいいな「ま」だよ。
次の場面があらわれて、おはなしが
つながっていくよ。



ぬいて